

宇宙生命哲学

ことばはじめ

27

北里環境科学センター
名誉顧問／宇宙生命哲学者

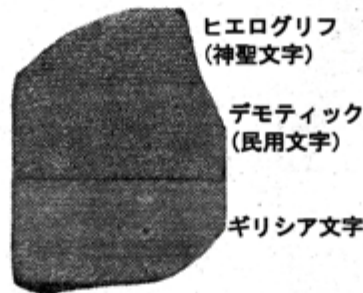
伊藤 俊洋

文明の本質とは何か？

人類は、およそ650万年前に東アフリカのジャンクルで誕生し、原人から旧人を経て、およそ25万年前に新人(Homo sapiens 現代人)へと進化し、地球全体に生息域を広げた。その過程で、およそ100万年前に火を使うことを覚え、調理法を開発し、およそ1万年前に狩猟採取から農耕牧畜へと生活スタイルを変えた。この改革により、余暇の時間が生み出され、言語や道具を使い生活の質を向上させることができた。しかし、音声や道具を使い、農耕をするものは人類だけではない。多くの動物が言葉や道具を使い、ある種の昆虫は農耕を行い、植物は様々な方法で情報交換している。

人類は、他の生物に比べて、極めて高度な文明社会をこの1万年くらいの間に築いてきた。何がきっかけでこのような文明が出来上がったのだろうか。それは、人類が、およそ1万年前に、考えたことを言語として記録に残す技術を開発したことに始まる。考えたことが記録に残ると、その後生まれた

人間は、蓄積された情報を踏み台にしてその先を考えることができる。情報の蓄積が増幅すると、それは、人類共有の巨大な知的財産となり、社会で広く利用されるようになった。地球上には多くの民族や国家が誕生し、それぞれが情報を交換しながら独自の文明や文化を創出し、文明相互の交流によりその裾野を広げ、人類は、アツという間に月を往復できるまでの科学的知識を獲得したのである。



ヒエログリフ (神聖文字)
デモティック (民用文字)
ギリシア文字
ロゼッタストーン (紀元前196年に古代エジプトで建てられた石碑の一部。3種類の文字で同じ内容が刻まれている) 大英博物館所蔵

長い生命の歴史の中で記録技術を開発したのは人類だけである。文明の原点は、考えたこと、経験したこと、成功したこと、失敗したこと、夢や希望や憧れ、自然現象や精神活動、これらの情報を記録に残すことである。文明は、過去から現在、さらに未来に繋がる生きた記録の絵巻物と考えると良いだろう。現代に生きる個人が、優れた発見や理論を編み出して、それらは過去の人類の汗の結晶の上に築かれたものであると考えるべきである。現代文明は、過去の人類が考え、経験したことの記録の蓄積

によって支えられている。特許権がある年限で失効し、人類共有財産になるのも、此のような思想によるものと思われる。

近年、記録を改ざんしたり、捏造したり、削除したり、黒く塗りつぶしたりする例も見受けられる。「文明の本質は記録を残すこと」を肝に銘じ、どのような状況にあっても、その本質を疎かにしてほならないと思う。